

琵琶湖及び周辺河川環境に関する専門家グループ制度
 第4回水陸移行帯ワーキンググループ会議
 議事のまとめと今後の方針

1. 議事次第

議 事 次 第
1. 開会挨拶
2. 議 事
(1) 第3回水陸移行帯ワーキンググループ会議 議事のまとめ
(2) 琵琶湖の水位変動による水陸移行帯に生息生育する生物への影響について
3. その他
4. 閉 会

日時 平成16年9月15日(水)14:30～17:00
 場所 ぱるるプラザ京都4階研修室5

2. 出席者

専門家グループ：浅野委員、嘉田委員、寶委員、戸田委員、西野委員、前畑委員 琵琶湖河川事務所：河村、酒井、佐久間、吉川、他 事務局：(財)河川環境管理財団
--

3. 使用資料

- 資料 - 1 第3回水陸移行帯ワーキンググループ会議 議事のまとめと今後の方針
- 資料 - 2 琵琶湖の水位変動による水陸移行帯に生息生育する生物への影響について
- 資料 - 3 琵琶湖で生息生育する生物の生息環境を修復するための琵琶湖水位操作
- 資料 - 4 琵琶湖湖岸の特性分析について
- 資料 - 5 琵琶湖水位変動によるコイ科魚類の産卵・成育への影響評価
- 資料 - 6 琵琶湖水位変動による貝類への影響評価(第1報)
- 資料 - 7 文献調査結果
- 資料 - 8 琵琶湖で生息生育する生物の生息環境を修復するための琵琶湖水位操作
- 参考資料 - 1 生物調査に関する学識経験者ヒアリングの結果について
- 参考資料 - 2 琵琶湖沿岸部の生物の生息環境を修復するための取り組みについて

4. 議事のまとめ

項 目	1. 第3回水陸移行帯ワーキンググループ会議 議事のまとめ
意見のまとめ	(特になし)
今後の方針、等	・前回の議事内容について、資料の通り了承を得た。

項 目	2. 琵琶湖の水位変動による水陸移行帯に生息生育する生物への影響について
意見のまとめ	(琵琶湖の水位変動による水陸移行帯に生息生育する生物への影響について) ● 今回の調査ではコイ科魚類の仔魚の死亡原因が不明のままである。外来魚の影響が考えられる。 ● 外来魚の胃内容物調査が必要である(昨年指摘済み) ● コイ・フナ調査の詳細な調査を実施する地点としては、滋賀県水産試験場が行った調査(コイ・フナの産卵場所等を示した地図データ)とほぼ一致することから本調査地点は妥当と考えられる。

	<p>(琵琶湖に生息生育する生物の生息環境を修復するための琵琶湖水位操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水位操作については、どこまでの水位なら許容できるのかを社会的な合意という観点で議論する必要がある。 ● 「治水・利水・環境のトレードオフの整理」は、治水・利水・環境の利害関係を解くという考え方ではなく、治水・利水の利害関係に新たな制約条件として環境が加わってきたと整理すべきである。 ● 過年度の結果を評価した上で次年度の試行操作を行うことは良いことである。ただし、今の段階では最適な操作のルールはまだ出せない。 ● 漁業者としては極端な水位変動は避けることに尽きる。 ● 今回の生物調査結果では、夏場の水位低下が与えるコイ科魚類への影響が大きいことから、夏場の水位維持を図る必要性があると考えられる。 ● 提案：ある程度の降雨時に人為的に大雨のような水位操作を行い、そこで産卵させ、その後、緩やかに操作を行うようなことは考えられないのか。実績として天ヶ瀬ダム放流による増水で下流の砂州で産卵をする実態がある。 <p>(新旭町針江地区の生息環境の改善について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヨシ帯の奥部は稚仔魚にとって重要な生息場である。そのような場所が琵琶湖に多くあれば真剣に改善の検討を行う必要がある。
<p>今後の方針、等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指摘内容を踏まえて、資料の精度を更に向上させる。 ・ 外来魚の胃内容物調査は、費用の問題もあり、実際どこまで可能かを次回に説明する。 ・ 次年度以降も今年度の結果を踏まえた水位管理を実施し、調査を行い、治水・利水上の制約を考慮しつつ琵琶湖に生息・成育する生物に最適な水位操作の検討を継続して進める。

項目	3. その他
<p>意見のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 針江地区の生物生息環境の修復について。9月26日に地元の住民参加で実施する予定。流域委員会、水陸移行帯WGの参加を募る。